

## 2024年度 第1回町田市立博物館運営委員会 議事録（要旨）

1 開催日時：2024年8月2日（金）午後2時～4時

2 会 場：町田市立博物館 小展示室（リモート併催）

3 配布資料：

資料1-1 2023・2024年度に実施した事業

資料1-2 2023・2024年度に実施した事業（写真）

資料2-1 2024年度に実施予定の事業

資料2-2 2024年度に実施予定の事業（写真）

資料3 2025年度の事業予定

4 出席者：【委員】

井上 暁子 委員長 今井 敦 副委員長 原田 一敏 委員

椿 敏幸 委員 宮原 裕美 委員 長谷川 智也 委員

伊藤 嘉章 博物館館長

5 副委員長の選出

井上委員長の指名により今井敦氏が副委員長（委員長職務代理者）に決定した。

6 議 題（報告）

（1）報告-1 2023・2024年度に実施した事業<資料1-1、1-2>

事務局 展示3件、体験講座7件、ブース出展1件、作品貸出1件を実施した。体験講座1件が中止となった。

委員 町田市立博物館らしい、所蔵品に関わるやきものとガラスの実技体験ということで、素晴らしい。

委員 この事業は子ども向け、親子向け、大人向けなど、どの講座がどれに当たるかを教えて欲しい。

事務局 とくに対象を絞っていない。体験講座ごとに少しずつ難易度などを考えながら行っている。たとえばガラスでいうと、ガラスフュージングが一番低年齢の5歳からを対象にしており、多くは小学校3、4年生から参加可能。ステンドグラスは中学生からで、そういった危険度や難易度に沿って、参加者の年齢制限を設けている。子ども、大人というふうには分けていない。

委員 国際工芸美術館が開館した場合、体験講座を開くような設備があるかと思うが、その企画などは今と同じように美術館の方々が担当するのか。

事務局 現時点では、最初の企画から立ち上げ段階までは学芸員が関わり、運営に慣れてきたらPFI 事業者任せにすることを考えている。

委員 今はスペースや先生の関係で1回に10人強が参加できるかということかと思うが、そういったところも増やしていくことや、また以前も委員の先生から意見があったと思

うが、難易度を高くしていくことで参加者が継続して自分のスキルを上げていくこともできると思うので、立ち上げからそのあたりを目指してやっていけると良い。

(2) 報告-2 2024年度に実施予定の事業<資料2-1、2-2>

事務局 展示2件、展示関連イベント2件、体験講座8件、学校連携2件、ブース出展2件、作品貸出2件を実施する予定である。

委員 出張展示について詳しく教えていただきたい。実際の茶会の流れをイメージした章立てを行い、作品が実際に使われている様子を感じてもらおうという内容は大変面白いと感じた。おもてなしが非常に大事で、その後の講演会にもつながると思うのだが、たとえばお茶の体験などをしたときに、ルールを守ろうとしてお茶を飲んでいるのだけれど、本当はそこでどういう対話がされたのだとか、そういう部分が大事であり、豊かな生活に結び付くのではないかと想像する。そうだとした場合、茶会の流れのなかでどのような対話を楽しむのか。具体的な茶会の流れをどういうふうで紹介するのかをもう少しかがりたい。

事務局 茶会のなかでは亭主と客が問答する、会話をする。それをできるかぎり展示に落とし込みたいと考えている。作品の解説キャプションなどもそういった亭主と客の対話を想起させる内容にしたいと思っている。

委員 大変良いと思う。たとえば、亭主と客の問答をLINEのように吹き出しでみせるなど、グラフィックデザインで工夫すると若い人も親しみやすいのではないかと。問答が肝になるのではないかと考えた。ご検討いただけると嬉しい。

委員 種明かしのようなものがあるとよいかも。なぜこの動作をするのかなど。

委員 全体を聞かせていただいて、内容もイベントの数も大変充実していて国際工芸美術館開館の機運を感じた。今年も玉川大学での講義をお願いしたい。

委員 体験講座のやきもので動物をつくろうについて、この兎は町田市立博物館のTwitterで前脚が異様に長いと紹介されていた。これは野兎で、飼兎ではないので、英語で言うとラビットではなくヘアー。普通は座ったときは蹲踞するような姿勢になるが、流石にそれをやきもので作れないので、肘でつくかたちになっている。ただし前脚は大変長く表現されている。動物の姿をかなりの確に、ただ抽象化しているわけではない。当時の人々の動物の観察だとか想いだとかが反映されているので、怪獣でもなんでもよいがただ自由に作るというよりは、そういったことが参加者に伝わると良い。有名な鳥獣戯画に描かれているのも野兎。プロポーションなどもかなり忠実に描かれていて、野兎は耳の先端が黒、中国の唐三彩の兎も耳の後ろは黒である。そういったところは観察して的確に捉えているので、参加者に伝わるとよいと思う。

委員 町田市立博物館の動物のやきものは大変魅力的なものが多くあり、Xでもよく紹介されている。素敵な動物が沢山いるので、打ち出していくと良いのではないかと。

(3) 審議 2025年度の事業予定<資料3>

事務局 展示2件、体験講座11件、ブース出展2件、学校連携4件、作品貸出1件を実施する

予定である。

委員 女子美大とのコラボレーションの展示が非常に面白そうだなと感じた。インスピレーションを得るときの作品の選び方などもワークショップ形式にすると面白いのではないかな。すでに作品についてはいくつか考えているのか。

事務局 授業のなかで町田市立博物館のこれまでの活動やコレクションの概要を説明する時間を設けていきたいと考えており、そのなかで学生たちが興味をもったものなどを、インスピレーションを得る作品に選ぶといったことを検討しているが、まだ手探りの状態である。学生たちとともに考えていくことを想定している。

委員 学生たちは、制作者か。プチ学芸員実習のような体験などもできたら大変良いのではないかな。たとえば、収蔵庫に入って桐箱から茶碗を出すような、初めて蓋を開けてお茶碗と対峙する感動などがある。自分の作品がどのように梱包、輸送、展示されていくかが分かると作品の制作にも大きく影響するのではないかな。社会との接点なども踏まえて、学芸員の仕事やスピリットなどが伝わったうえでのインスピレーションが与えられると良いと思う。

事務局 実際に博物館にも来ていただき、作品を観てもらおう機会はつくりたいと考えている。ご意見を参考に進めていきたい。

事務局 先ほどおっしゃられた、作品の選び方のワークショップについて、具体的なイメージがあれば教えていただきたい。

委員 キュレーションにかかわる部分かと思うが、たとえば所蔵品が何千点かあったとして、どのような切り口で見ていくか。そういうキュレーションの軸を皆でディスカッションしながら決めていくなどができるのではないかな。一つの作品でもどのように切るか、ストーリーをつくる時にも無限にある。そこはやはり学芸員が展示をつくる、ストーリーをつくるうえで大事なので、それが体験できるととても充実したものになるのではないかな。

委員 学校連携などの話が出てきているが、今回小学校や大学は入っているが、中学校との連携がまだない。これについて博物館としては、いっきにあわてて広げていくのではなく、それぞれとどういった連携をしていくのがいいのかを先生方に相談しながら検討していきたい。たとえば出かけていたり、教員の研修のようなものであったり、あるいは美術の先生だけではなく中学校教員の教養講座のようなものも可能かもしれない。色々なかたちでご相談させていただくと、次の運営委員会では中学校との連携が報告できるかもしれない。よろしく願いいたします。

委員 色々な世代が体験するというなかで、一番欠けているのはやはり高校生のかかわり。どこの美術館・博物館でも非常に少ないような気がする。私自身が勤めているところでも同様。大学生の体験というのも結構だが、むしろ高校生に、一番来てもらえないところを対象にするのも一つの手かと思う。もう一点、講座を沢山企画されていて大変素晴らしいことだと思うが、応募者と実際に参加した人のパーセンテージやリピーター、新規などの割合はどのようになっているか。

事務局 リピーターについてはチェックをしていない。体感としてリピーターがいるというのは

把握しているが、あまり長く個人情報を持っていたくないというのもあり名簿はすぐに破棄してしまう。定員に対する応募者数などもデータ化していない。先着に関しては定員に達した時点で締め切ってしまうので、応募者数も把握できない状況がある。

委員 広く体験いただく仕組みを作って欲しい。

委員 私から学芸員をお願いしていることがある。学芸員が考える講座が非常に面白いのだが、参加できる人数が限られている。それぞれの講座の面白さを二次利用、三次利用できるようなかたちでもっと広げていきたい。面白いのにもったいないというのもあるし、来られなかった方に申し訳ないというのもある。それについて良いアイデアがあれば皆様からいただきたいと思う。

委員 展覧会をしていれば関連事業をつくりやすいが、町田市立博物館の場合は今それができないので、こういう体験講座として、博物館活動のなかで実現せざるをえないと思う。2027年に新しく開館された際には、展覧会に合わせた講座なども今から準備していただくと、客層も広がっていくのではないかと思う。

#### (4) その他

事務局 (仮称) 町田市立国際工芸美術館の進捗状況について、2027年9月の開館を目指し、今年2024年の秋に工事の入札を行う予定で準備を進めている。また、工芸美術館の向かいに建設を予定している(仮称) 公園案内棟・喫茶版画工房・アート体験棟については美術館より一足早い2027年の6月のオープンを予定している。そちらができる頃から国際版画美術館の一部の改修工事が始まり、美術館の一部にアート出合いの広場というさまざまなイベントをするようなスペースや工芸美術館のミュージアムショップなどができる。これらが完成するいわゆるグランドオープンは、2028年12月を予定している。

事務局 本日いただいたご意見をもとに、今後の博物館の運営を行っていく。

委員長 これをもって閉会とする。